令和7年7月6日～9日の都内のPM2.5の高濃度事象について

令和７年７月11日
東京都環境局

状　況

○ 7月6日(日)夕方から都内の大気中の**微小粒子状物質(PM2.5)の濃度が上昇**

※通常10～20μg/m³　⇒　**40～50μg/m³**

7月9日(水)夕方まで高濃度状態が継続し、9日夜以降は通常レベルまで下降

環境基準（短期）
日平均 35μg/m³

○　東京都環境科学研究所の成分分析の結果、火山由来成分が高濃度で検出

⇒　**九州地方の噴火の影響の可能性**【参考資料のとおり】

高濃度時の対応・大気汚染の情報サイト等

○　今回の事象では、国が定めた**注意喚起のための暫定的な指針となる値（日平均70μg/m³超）には達していませんでした。また、9日の夜以降は濃度は下降しています。**

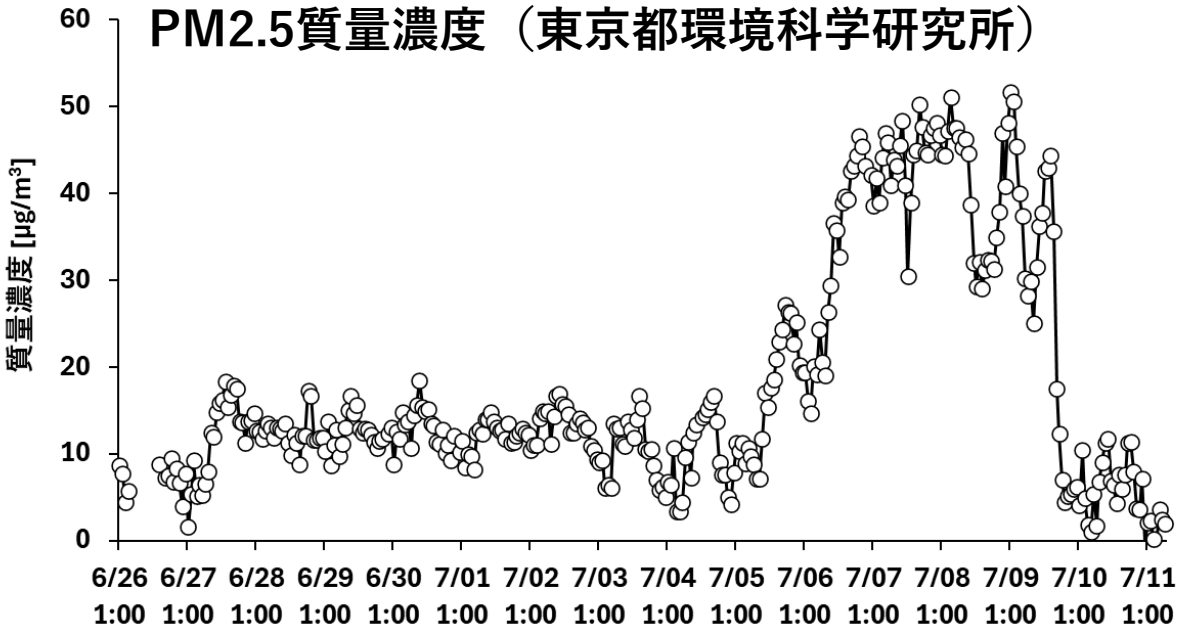
○　今後、濃度の上昇傾向があるときには、高感受性者（呼吸器系や循環器系疾患のある方、小児、高齢者等）は、健康への影響がみられることがあるため、体調の変化に注意をしてください。

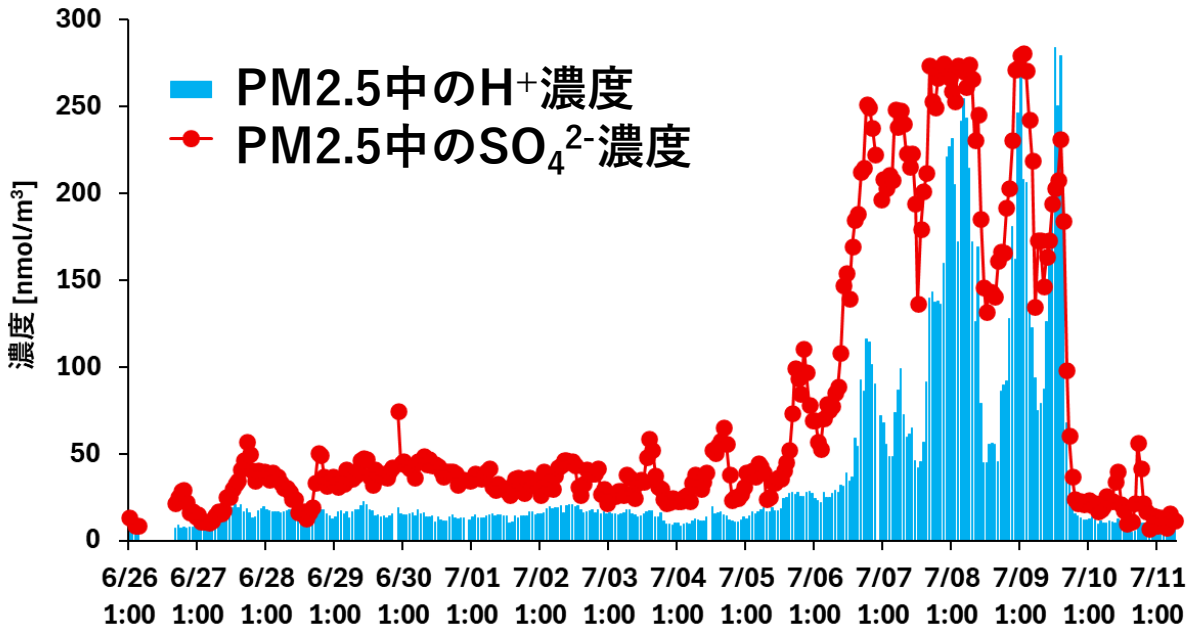
○　都内のPM2.5の状況は、以下のサイトで確認できます。

大気汚染情報リアルタイム時報　https://www.taiki.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/taikikankyo/realtime/index.html

【参考】注意喚起のための暫定的な指針について（環境省HP）　https://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html

【参考】東京都環境科学研究所での測定結果（速報値）





- PM2.5（質量濃度: 50μg/m^3）中から、硫酸イオン（SO_4^{2-}）が300 nmol/m^3（＝28.8 μg/m^3）程度、水素イオン（H^+）が300 nmol/m^3（＝0.3 μg/m^3）程度検出された。
- 水素イオン濃度が上昇しており中和されていないことから、硫酸粒子の流入が示唆される。
- 火山性ガスとして噴火に伴い放出される二酸化硫黄が大気中で反応し硫酸粒子が形成される。
- 昼夜問わず高濃度が継続していることから、局地的な生成でなく都外からの移流の可能性がある。

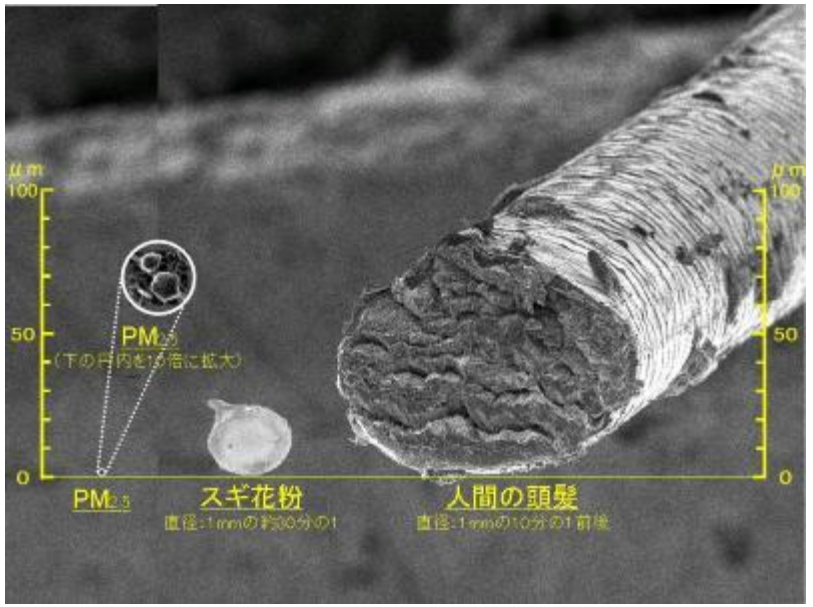
提供：東京都環境科学研究所

【参考】微小粒子状物質（PM2.5）について

１　微小粒子状物質とは

微小粒子状物質（PM2.5）とは、大気中に浮遊している粒子状物質のうち、粒径2.5μm（マイクロメートル、1μmは1mmの千分の1）以下の粒子のことです。

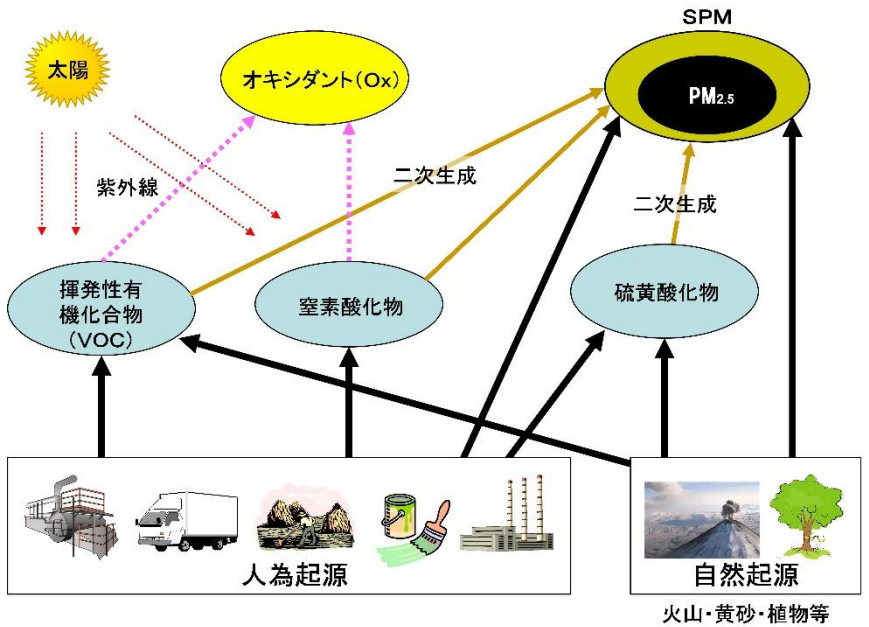
PM2.5は、非常に小さいために呼吸器系の奥深くまで入りやすいことなどから、人の健康に影響を及ぼすことが懸念されています。



２　発生原因

PM2.5などの粒子状物質は、生成機構により、発生源から直接粒子として排出される「一次粒子」と、排出された時は気体であるが、大気中で化学反応などによって粒子化する「二次生成粒子」とに大別されます。

また、発生源によっても人為起源と自然起源とに分類されます。人為起源としては、ボイラー等のばい煙を発生する施設、自動車や船舶等の移動発生源、塗装や印刷等の揮発性有機化合物（VOC）を発生させるものなど、多種多様な発生源があります。自然起源としては、火山活動や黄砂のほか、植物などがあります。

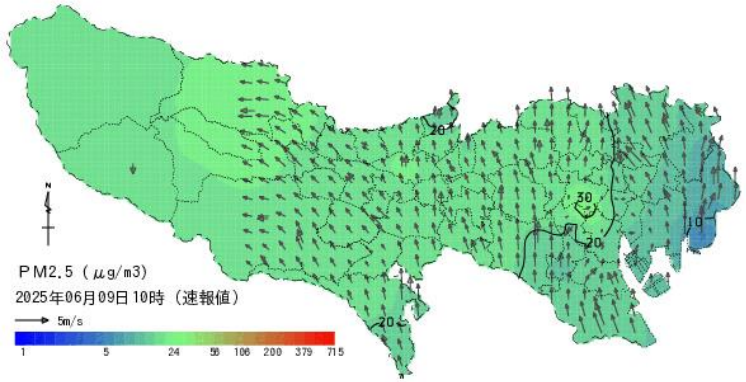


【参考】大気汚染状況の情報発信について

都内の大気汚染の状況は、以下のサイトやアプリで発信しています。

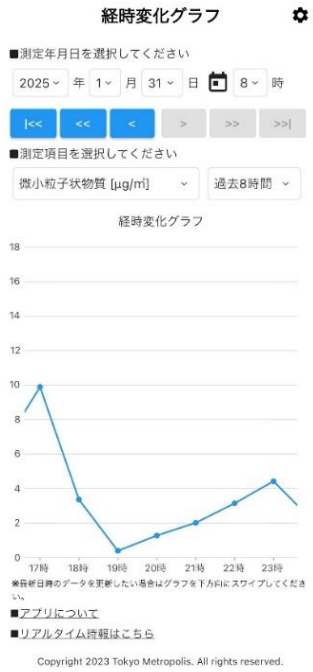
１　リアルタイム時報

https://www.taiki.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/taikikankyo/realtime/index.html



２　地図情報

https://www.taiki.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/taikikankyo/map/index.html



３　大気情報提供アプリ「TOKYO大気情報」

https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/03/2025030509

問合せ先：東京都環境局環境改善部大気保全課　03-5388-3568